



学校だより

バンクーバー補習授業校

2025年度

第5号

2025・5・17

「航空教室」を実施しました。

～空の安全を守る職業の世界にふれる～

5月10日（土）、日本航空バンクーバー支店より4名の講師の皆様をお招きし、小学部5年生以上の児童生徒を対象に「航空教室」を実施しました。

航空機の安全運航を支える整備部門、お客様に寄り添うグランドスタッフ（旅客部門）、そして空港全体の運航を支えるステーションオペレーション部門の担当者が、スライド資料を提示し、それぞれのお仕事についてわかりやすくお話をしてくださいました。

子どもたちは、普段なかなか知ることのできない航空業界の現場の話に興味津々で、熱心に耳を傾けていました。

「職業の世界を垣間見る」貴重な体験となり、将来の進路や夢について考えるきっかけになったことと思います。

このような機会をいただいた日本航空の皆様にも、心より感謝申し上げます。



【中学部生徒の感想から（抜粋）】

- 空港でのお仕事に興味を持っていた僕にとって今回の3部門のお話は、たいへん貴重なものでした。空港ではたくさんの方がいろいろな役割を持って私たちの旅を安全にしてくださっていることを知りました。到着から出発までの短時間でたいへんな準備をしていることが分かり、感動しました。今回の講話で、私の将来の選択肢が広がり、これからいろいろなことに挑戦していきたいという気持ちが高まりました。
- 特に心に残ったのは、整備士の方のお話です。多くの人の命を預かるお仕事で、「最後に頼るのは、長年培ってきた五感だ。」とおっしゃったのにはとても驚きました。
- 普段あまり触れることのない航空に関わる方々のお話は、興味深いことばかりでした。グラウンドスタッフの方はイメージでは利用者を案内するのが主な仕事だと思っていましたが、搭乗していないお客さんを捜しまわったりなど、たいへんな側面もあることを知り、驚きました。また、整備のお仕事は思っていた以上にプレッシャーを感じるお仕事だと改めて感じました。ステーションオペレーターの方は、飛行機の到着から出発までの情報を管理するという大事なお仕事であることがわかりました。興味深いお話ばかりでした。
- 空港や飛行機が好きな僕には、今日のお話はとても興味深く、聞くことができてとても良かったと思います。知らなかったことも多くあり、分かりやすくお話をしてくださいました。
- 航空に関するプレゼンを聞き、非常に興味深く感じました。特に、印象に残ったのは、整備士の役割の重要性です。飛行機の安全な運航を支えるために、細心の注意が必要であり、航空業界を支える仕事であると感じました。グラウンドアシスタントも、飛行機の運航に不可欠であることを知りました。どの仕事も、責任感が求められることが伝わり、それぞれの役割の重要性を感じました。

【日々の授業から】

「わけをはなそう！」 ～自分の思いを言葉にして（小1国語）～



小学部1年生の国語の授業では、「わけをはなそう」という学習を行っていました。

この単元では、「どうしてそう思ったのか」「なぜそれを選んだのか」といった、自分の考えの“わけ”を相手に伝えることを学びます。

授業では、隣の友だちと向かい合って、「わたしは〇〇がいいと思う。なぜなら…」と、考えたことを自分の言葉で丁寧に伝える姿が見られました。お互いの話をしっかりと聞き合い、「それもいいね」「そうなん

だ！」と反応しながら、教室には和やかな雰囲気が広がっていました。

自分の思いを言葉にして表現すること、そして相手の思いを受けとめること——こうしたやりとりの中で、子どもたちは少しずつ、考える力や伝える力を育んでいます。これからの学びの土台となる大切な力を、楽しみながら身につけている様子がとても印象的でした。

「タンポポを描く」 ～タンポポの観察から表現の活動へ～

幼稚部ではタンポポを観察し、水彩絵の具を使ってその姿を描く活動を行いました。

子どもたちは、小さな花びらの形や鮮やかな黄色、綿毛のふわふわした様子などをじっくりと観察し、目を輝かせながら発見を楽しみました。

絵を描く際には、絵筆を動かしながら一人ひとりが感じたことを口にしながら思い思いに表現していました。

このような自然とのふれあいや観察を通して、子どもたちは五感を使いながら豊かな感性を育んでいます。また、自分の見たこと・感じたことを絵や言葉で表すことで、表現力や集中力、そして「もっと知りたい」という探究心も育っていきます。

自然を見つめ、心で感じ、それを形にする・・・そうした体験が、子どもたちの内面に小さな種となってまかれ、これからの学びにつながるものと思います。

